

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2 さくら)

事業所番号	0150480036		
法人名	医療法人 北武会		
事業所名	グループホームほくと		
所在地	札幌市手稲区手稲本町3条4丁目2番5号		
自己評価作成日	令和6年2月15日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0150480036-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0150480036-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和6年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設はワンフロアに2ユニットあり、昼夜ともユニット間での連携、協力体制が確立しています。毎月の行事や日々のレクリエーション等で利用者様の交流を図り、馴染みの方々と一緒に楽しむことや張り合いある生活が送れるように工夫しています。また、看護師指導のもと利用者様お一人ひとりの身体状態を把握し、下肢の機能訓練に取り組んでいます。ご自分の足で歩けること、立ち上がることの充実感や自信を持つことで前向きに生活していただけることを目指しています。そして、毎日ストレッチ等を行いフラットな長い廊下を使用しての歩行や3階からの眺望で季節を感じていただき、夏はバルコニーでBBQ等の行事を行っています。利用者様が自分らしく生活するため、出来ることの維持と継続に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市手稲区の市街地に位置し、JR手稲駅南口から徒歩圏内で、3階建ての3階にある1フロア、2ユニットのグループホームである。国道5号線沿いで、近隣にコンビニや飲食店、消防署などがあり、利便性のよい地区である。建物内は、病院転用型で1階2階に同法人の3ユニットのグループホームがあり、2階には渡り廊下で特別養護老人ホームが併設している。1階には、多目的スペースがあり、地域に開放している。ホーム内は、リビングや食堂、廊下、居室など全てが広くゆったりとした造りである。法人は医療法人だが、社会福祉法人など含めて多岐に渡る業容展開をしており、病院や老健施設、特養ホームなどを運営しており、地域への貢献度が高い。協力医療機関も法人内の病院で、24時間の医療支援体制を構築している。コロナ過で地域との関わりが出来なかったが、これから再開して以前のように交流を深め、笑顔の絶えないホームとして、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
		2 利用者の2/3くらい			2 家族の2/3くらい
		3 利用者の1/3くらい			3 家族の1/3くらい
		4 ほとんどつかんでいない			4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
		2 数日に1回程度ある			2 数日に1回程度
		3 たまにある			3 たまに
		4 ほとんどない			4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
		2 利用者の2/3くらい			2 少しずつ増えている
		3 利用者の1/3くらい			3 あまり増えていない
		4 ほとんどいない			4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
		2 利用者の2/3くらい			2 職員の2/3くらい
		3 利用者の1/3くらい			3 職員の1/3くらい
		4 ほとんどいない			4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
		2 利用者の2/3くらい			2 利用者の2/3くらい
		3 利用者の1/3くらい			3 利用者の1/3くらい
		4 ほとんどいない			4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
		2 利用者の2/3くらい			2 家族等の2/3くらい
		3 利用者の1/3くらい			3 家族等の1/3くらい
		4 ほとんどいない			4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が			
		2 利用者の2/3くらい			
		3 利用者の1/3くらい			
		4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念は出入口のエレベーター前、事務所と各自の名札裏に掲示している。ミーティングでの復唱に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、毎月の資源回収に協力している。また、清掃活動にも可能な限り参加しています。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行後の令和5年9月からは、介護予防の体操を開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する地域の方々の理解を頂くため、当施設内のフリースペースを地域に開放しサークルや団体に利用して頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染対策のため書面会議となっていたが、令和5年7月より通常通り開催できた。町内会役員や民生委員、地域包括支援センター担当者から情報提供やご意見をいただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム協議会や区の会議は休止しているが、地域包括支援センターの担当者と定期的に情報交換を行い、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア	内部研修を実施し検討した内容を職員全体に周知徹底している。新しく入職する職員については、オリエンテーションを行う際に資料を渡し、説明を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と併せて虐待についても研修を行っている。どういった行為が虐待なのかを繰り返し学べるようにしている。新しく入職する職員については、オリエンテーションを行う際にマニュアルを渡し、説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者がいらつしやる為、ご家族様や後見人の方から制度に関して学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には特に施設、家族間に於いて重要な部分は特に丁寧に説明し理解のうえ了承を得ようとしている。また、施設として出来る事と出来ない事を明確にしている。改定時には、理解と納得を頂けるように説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、ご意見や要望を伺っている。また、毎月入居者様の様子を「ほくと便り」にて報告している。入居者様に対しては日常にお伺いし、ご家族には電話や面会、来設時にご意見をお伺いしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや担当者会議、朝夕の申し送り時や個別面談などを利用し、意見や要望を聞く機会を設け可能な限り運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が時間経過なく意見を言えるような環境を作り、定期的に面談を行い、月1回の管理者会議にて共有できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が、介護の指導やトレーニングを行っている。また、看護師や訪問歯科の先生より医療や歯科に関する指導を頂いている。感染対策のため外部研修は難しいが、リモート等で研修を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	手稲区のグループホームの管理者会議はコロナのため実施されていないが、入退去等に関する情報は情報交換は行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学時から入居に対する不安や困り事を傾聴し、利用者やご家族に安心して頂けるように説明を行い、不明な点や疑問点がないかを確認している。また、面会時や利用料金のお支払いの際などを利用し、何気ない会話から不安や要望を拾い上げ把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者やケアマネジャー、看護師がご家族と面談し、ご家族の要望や困っていること、不安なことをお伺いできる限り、ご本人やご家族の意向に沿ったケアができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意向、アセスメントを擦り合わせて、今現在必要とされている支援を提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを受け止め、出来ることの維持継続を目標に声かけや誘導を行うように指導している。一方的な関係にならないよう、共に生活する者同士としてのコミュニケーションや信頼関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお支払いの際など直接顔を合わせたり、電話などでの会話の中での情報交換を行っている。また、ご家族には毎月、写真入りの「ほくと便り」を郵送し関係が疎遠になることのないよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の希望も多くあり随時対応している。電話での会話やハガキの交換など継続的に実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の特性を把握して利用者間の関係性に配慮し孤立しないように、また、トラブルにならないよう職員が間に入るなどして、お互いが良好な関係性を保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループ内の他の施設に移られた場合は面会に行ったり、様子を電話などで聞いたりもするが、状態変化により他施設に移られた場合は連絡等を取っていないのが現状である。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で表情や言葉などを観察し、その方の思いを把握するように努めている。また、職員間の情報共有も積極的に図るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人若しくはご家族等から情報を聞き取るようにしている。入居後は本人と居室での会話や普段の何気ない会話の中から、また、開放的な気分になる入浴時などに、これまでの生活習慣・こだわり等について伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりと介護記録、毎日の申し送りなどで本人の状態把握に努めている。新しく得た情報に関しては随時、職員共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきシートを活用し、小さな気づきを大事にしてアセスメントを取りモニタリングへつなげて職員や看護師、主治医からの意見も取り入れた支援計画書を作成出来るようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	要点を得た、分かりやすい介護記録を書くことに重点を置いている。また、出来ないことばかり目が行きがちだが、長所や出来ることへ目を向けた具体的な情報を載せ記録するようにしている。職員間での情報共有のため連絡ノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の事情を鑑みての通院の対応や消耗品、嗜好品の個人的な買い物等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策のため限られた地域資源ではあるが、活用出来る資源(訪問理美容など)については活用するようにしている。今後は更に活用できるように取り組んでいきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の訪問診療は月に2回の往診を受けている。訪問歯科と訪問皮膚科は毎週1回の往診がある。他科受診に関しては原則ご家族の付き添いとなっているが、看護師、職員の付き添いとなる場合もあり適切な医療を受けられている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化はもちろんだが、いつもと何か違うという気づきであっても看護師と連携し報告、指示を仰いでいる。病院の受診時は看護師が付き添いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を医療機関に速やかに提供している。主治医、入院先の担当医、医療相談員、ご家族との連携を密に図り、情報交換を行い、回復状況を見ながら退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化した場合や終末期になった場合の当施設に於ける方針を説明している。本人及びご家族の希望も踏まえ、よりよい方法を話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中や夜間帯に於ける緊急時対応マニュアルを分かりやすく作成し、見やすい場所にファイリング及び掲示してある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回定期的に実施している。また、自然災害や感染症対策のBCPを作成した。今後は実践に反映できるよう努力する。災害が起きた場合には近隣住民の協力を仰ぐと共に避難場所の提供も行う予定となっている。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に介護職の接遇マナー、高齢者虐待のマニュアルを配布し、ユニット会議等で研修を実施した。また、り、個人面談などで、問題のある職員に対し指導を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や入浴時の職員と1対1での会話の中で入居者様の思いや希望をお伺いできるようにしている。また、小さな気づきを大切に声かけている。自己決定が難しい方は、ふとした表情の観察やご家族へ希望をお伺いしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご本人のペースでの生活リズムを大切にしている。毎日の体操やレクリエーションも無理強いることなく声かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は毎朝、職員が髪を整え服はご本人と相談し準備している。また、ご家族が準備した物以外に希望があれば、ご家族に相談しているが、職員が買い物をすることが多い。定期的に訪問理美容ではカット、希望の方はパーマや髪を染めています。相談が難しい利用者様は清潔と季節に応じた物を準備し支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは決まっていますが、味付けや食事形態は個々に合わせて準備しています。希望により朝はパンを準備している方もいます。また、月2回程の行事は季節感を味わっていただけるよう工夫しています。利用者様がテーブルの消毒をしてくださる方もいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分量把握のため記入しています。中には医師や看護師の指示のもと、水分量を調整している方もいます。食事量も記入し主食を計量して提供している方もいます。食事が進まない方や好き嫌いの多い方には、補助食品やお好きな食べ物、飲み物を購入し摂取に繋げています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る方はして頂きますが、訪問歯科の指導のもと職員が歯間ブラシ、スポンジ等を使用し仕上げをしています。義歯の方は就寝前に消毒のためお預かりしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日の排泄表にて排泄状態の把握に努めています。自立している方は少ないため、各々のパターンを把握しトイレで排泄できるように誘導、介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師より個々の入居者様の便秘について指示を仰いでいる。毎日の運動や廊下歩行、職員と一緒に廊下掃除などで適度に体を動かして頂けるよう声がけ提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	清潔保持や気分転換のためにも、声がけ入浴していただいています。シャワー浴希望の方、最後に入湯希望の方など、ご本人の体調を見ながら希望に添えるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活リズムを崩さないよう、日中は適度に体を動かしての活動や居室の室温、寝具、冬季は加湿器、夏季は扇風機等の状態を確認をしています。不安や心配等へは寄り添い傾聴しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者様は全介助にて服薬しています。看護師が薬を準備しますが、職員が個人ファイルにて効能や目的、副作用について常に確認するようにしている。また、症状に変化があった時は看護師へ伝え指示を仰いでいる。また、看護師より連絡ノートにて、職員に周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や入居時の情報に加え、日々の会話などから、各々が楽しめるよう、役割のある生活が送れるよう努めています。手先の仕事が好きの方には、刺繍や刺し子など何種類かを準備、書写や計算、四字熟語など一人ひとりに添い、継続していただけるように取り組んでいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策のため、受診以外は外出する機会が少なくなっていた。今後は季節を味わっていただけるような花見や外での散歩、ご家族と外出する機会を設けていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預り金としてご家族より、お預かりしています。ご本人の日常の過ごし方、食べ物や飲み物の好き嫌いを理解し、職員が買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があれば、施設の電話を使用してかけている。また、定期的にご家族やご友人からの手紙やハガキが届く利用者様へは、お渡している。返事用のハガキは、職員が写真入りなどを作成して一緒に作り、職員が投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はリビングと食堂を兼ねており、職員が食事を作りながら利用者様を見守れるようになっている。建物の3階のため眺望がよく気分転換にも繋げている。季節の作品や風物詩を壁に飾り、季節を目でも楽しんでいただけるように努めている。また、誕生日月の方は名前プレートを飾っています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには3人掛のソファを3台設置し、気の合う入居者様同士やお一人でゆったりと過ごせるようにしている。また、ピアノが得意な方のためにシンセサイザーを置き就寝時間以外で、ご本人が弾きたい時に弾けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より慣れ親しんだ家具や写真、置物などを可能な範囲で持参していただき、不安を軽減し安心や居心地の良さに繋がるよう取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は入居時より利用者様の歩行状態を鑑みて、転倒リスク軽減のための動線確保や家具の配置に考慮している。立位の状態によりベットの欄をスイングアーム等に変更している。ご本人が出来ることの維持継続を目指し、自尊心に配慮した声かけをして、できない事を見極め介助するように努めている。		